
とある異端の霧の銀幕(ミストスクリーン)

鮫牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある異端の霧の銀幕 ミストスクリーン

【Nコード】

N1280K

【作者名】

鮫牙

【あらすじ】

オリキャラ中心の

二次創作です。

原作とは違ったストーリーを考えていますので、原作を知らなくても読みやすいと思います。

1・つまらない日常(1)

「暇だ…」

何も面白いと感じない…

「はるるき君」

こいつはつまんねーくらい普通な、
餓鬼の頃からの幼馴染み

「んだよ…毎回ウルセエぞ…バカ」

「みなは馬鹿じゃない」

春騎君が頭良すぎるんだよ…」

つまんねー日常の、

つまんねー普通の会話

「ねえ」

聞いているの？春騎君」

「ああ、聞いてねえし

聞く気も無い…」

「ひつど〜い！」

ウルセエんだよお前は…

「で、何の話し？」

「また暇してるの〜?」

「いつもの事…」

「春騎君は日常生活に絶望してるもんね〜」

まるで上条ちゃんみた〜い」

「上条?」

「えつとね〜」

ガサガサと肩に提げた鞆をあさり
一冊のライトノベルを取り出す、

「『とある魔術の禁書目録』^{インテックス}の主人公だよ
運の無い主人公^{かみじょう}上条 当麻^{とうま}が

いろんな事件に巻き込まれて超能力や魔術と戦うお話なの〜
結構読んでる人多いんだよ〜?」

「夢みたいの世界なのな…お前にはピッタリだよ…」
現実にはありえね〜話をこいつは好んで読みたがる…
現実ほどつまらね〜事も無いのは確かだが…

「また春騎君はみなを馬鹿にするんだね〜」

「別に馬鹿にしてね〜よ

むしろ、お前が羨ましいくらいだ…」

「なんでだろ?」

みなには皮肉にしか聞こえないよ〜?」

「毎日退屈でやってらんねーんだよ……」

「この前当てたグアム旅行は？」

「両親に行かせた」

「その前に当てた二億円は？」

「家の改築・増築して余りの半分親にやった。」

「な…何円残ったの？」

「五千万」

「みな的人生何だったんだろ…」

高校生が持つてても無意味な額だ…だが

親に今まで持つていかれた分、今回は俺がもらった

「春騎君てほんつとに運が良いよね…福引は欲しい物が当たる、

宝くじは十万、二十万はあたりまえ、

信号待ちしてるのを見たら、奇跡が起きるって都市伝説まで有るんだから」

1・つまらない日常(2)

「俺は普通が良いんだよ……」
左目の眼帯を人差し指で掻く

「私の前で位眼帯外したら？」

「ああ、そう……だな」
手を後ろに回し

左目から眼帯を外す

「やっぱり綺麗だね」
春騎くんのその緑の眼」

「ありがとな……魅奈美」

「うん！」

……

紹介が遅れた……

俺は、八神 春騎

一応、高校一年生

成績優秀、頭脳明晰、文武両道

自分で言うのもなんだが、

つまらないほど、完璧である。

だからと言って悩みが無い訳じゃない

両親とは血が繋がってないし、

左目と右目で瞳の色が違うし（眼帯をしてる理由は別だけど）、
左手も人とは違うからいつも片手だけは手袋をしてる。

日々の生活もつまらなさと感じる今日この頃…

「春騎君〜？」

みな話し聞いているの〜？」

「ごめん、ぼーっとしてた…

で、何？」

「も〜！」

ちゃんと聞いててよ〜！」

そう言っつて、

魅奈美が立ち止まる

「何だ？」

急に真剣じゃねーの…！」

「あの子…」

今日で〜バ…バイバイ…何だよね？」

さっきまで元気だった奴がもじもじして、
ずっと下を向いている。

「まあ、親父の都合で

引っ越すからな…！」

産まれて初めての不幸ってやつか？

「残れないのかな〜？」

「親父にも聞かれたよ、

残りたくないのかって…！」

「じゃあ〜!?!？」

「でも一緒に行く事を選んだんだ」

「な…何で？」

「俺の親心配性だからさ…」

「一人暮らしなんてしたら夜も寝らんなくなっちまう…」

「本当の事なんか言えねえ…」

親父の会社の上司は俺を引っ越し先の自分の娘の許婚にしようとしている

そのための異動であり、

親父はその事で悩んでいた、

出世したのもその上司のお陰

上司は会ってくれてくれるだけで良いといった

だけどそんな事のために息子の生活を変えさせる必要は無い、

俺は親父のためならと、引っ越しを決意した

「じゃあ…さ」

魅奈美がなにか言おうとしている

「あげたいものがあるんだ…目え…瞑って？」

「あ、ああ

「こうか？」

目を瞑りそう聞くと、

唇を柔らかいもので塞がれた…

すぐに離れて行く

「もう目開けていいよ〜」

目の前には顔を赤く染めて笑っている魅奈美の姿があった
その様子を見て自分の唇に何が触れたのかを知った

手を唇に持っていく

「みなの方ーストキス春騎君にあげちゃった〜…」

「魅奈美…」

「元気でねっ…」

みなのこと忘れちゃだよ〜？」

魅奈美の目に涙がたまってこぼれていく、

「バーカ、何の心配してんだよ」

そう言つて魅奈美の頭を小突く

「痛〜い〜!!」

頭を押さえうづくまる魅奈美

「ハハハハハ！」

腹を抱えて笑う俺

「酷いよ〜!!」

こいつの顔も見納めか…

「じゃあ…俺そろそろ行くわ…」

「え!?!」

少し離れて振り向く

「ありがとな…魅奈美」

「うん!!」

最後に見る顔が笑顔でよかった…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1280k/>

とある異端の霧の銀幕(ミストスクリーン)

2011年10月9日19時32分発行